



2026年6月9日

各位

会社名 イノバセル株式会社  
代表者名 代表取締役 Co-CEO ノビック・コーリン  
代表取締役 Co-CEO シーガー・ジェイソン  
(コード番号：504A 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役 CFO 細野 恭史  
(<https://innovacell.com/contact/>)

## 肛門失禁及び便失禁治療のための筋芽細胞に関する医薬組成物についての

### 日本における特許査定受領のお知らせ

当社オーストリア子会社 (Innovacell GmbH) の「特定の患者群における肛門失禁及び便失禁治療のための筋芽細胞を含む医薬組成物に関する特許出願」(以下「本出願」という) について日本において特許査定が下りた旨日本国特許庁特許公報 (2026年6月8日発行) に掲載されましたので、お知らせいたします。

本出願は、当社グループ開発中パイプラインのうち、切迫性便失禁をターゲット疾患とする ICEF15 に関するものです。今回の本出願の特許査定は ICEF15 の日本における商業化可能性を高めるものとして注目されます。

#### ■本出願の概要

- 【発明の名称】 肛門失禁の予防及び治療のための最適化された方法で使用される筋原性前駆細胞  
【国際出願番号】 PCT/EP2022072088  
【特許権者】 インノヴァセル ゲーエムベーク (Innovacell GmbH)

#### ■ICEF15 の概要

本出願は、当社グループが開発しているパイプラインのうち切迫性便失禁をターゲットとする ICEF15 に関連するものです。

便失禁とは無意識または自分の意思に反して肛門から便が漏れる症状と定義され、日本国内には約 500 万人の便失禁に悩む患者さまが存在すると言われております (出所：一般社団法人日本大腸肛門病学会ウェブサイト)。便失禁症状は切迫性便失禁と漏出性便失禁及び両者が併存する混合性便失禁に分類されますが、このうち切迫性便失禁は便意を感じるもののトイレに行くまでの短い時間を我慢できずに便が漏れてしまう状態を主な症状とし、外肛門括約筋の機能低下が原因となって生じやすいとされています。専門学会誌に発表された論文 (味村俊樹ほか「本邦における便失禁診療の実態調査報告—診断と治療の現状—」日本大腸肛門病会誌 65 : 101-108, 2012) によると、便失禁患者さまのうち半数強 (約 51%) が切迫性の症状を有しています。

現在当社グループは、便失禁に関するパイプラインの1つとして、切迫性便失禁をターゲット疾患とする ICEF15 の開発を進めております。ICEF15 で使用する細胞は患者さまご自身から採取して製造した自家骨格筋由来細胞 (aSMDC) であり、筋組織の幹細胞である衛星細胞から分化、増殖させた筋芽細胞 (骨格筋を構成する筋線維の起源となる前駆細胞) です。

#### ■本出願の意義

本出願は特定の患者群における肛門失禁及び便失禁治療のための自家骨格筋由来細胞 (筋芽細胞) に関連するものであり、特許査定を受けた請求項の範囲で ICEF15 に対して特許による保護を与えます。今回の本出願

が日本において特許査定を受けたことは、日本における ICEF15 の商業化可能性を特許面から高めるものでありと捉えることができます。

#### イノバセル株式会社について (<https://innovacell.com/>)

当社の前身は欧州オーストリアのインスブルック医科大学からスピナウトした再生医療企業であり、当社はこのオーストリア企業の親会社として 2021 年に日本で設立されました。

当社グループは細胞治療・再生医療の事業化を通じた人々の健康と QOL の向上を目指しており、現在失禁（切迫性便失禁、漏出性便失禁、腹圧性尿失禁）を治療するための再生医療等製品の研究開発・事業化に取り組んでいます。

当社グループのパイプラインで開発が最も進んでいる ICEF15 は、患者さまご自身の細胞を活用し、その局所投与を通じた筋肉の修復・再生を図ることによって切迫性便失禁の根本治療を目指す製品です。現在当社グループは、ICEF15 について欧州 11 ヶ国及び日本で第Ⅲ相国際共同試験を実施中です。

当社グループは、これまでに欧州において ICEF15（ターゲット：切迫性便失禁）と ICES13（ターゲット：腹圧性尿失禁）の 2 つのパイプラインについて後期第 II 相試験を含む複数の臨床試験を完遂しています。

以 上